

まるこやま

第63号

令和2年9月20日

〒699-1251
雲南市大東町大東2419-1
大東交流センター
TEL(0854)43-2130



E-mail: daito-c@hotmail.yoitoko.jp
http://user.yoitoko.jp/daito-c/

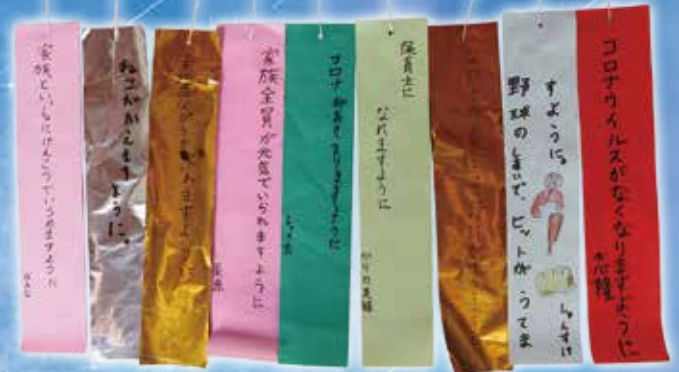
大東交流センターだより

発行：大東地区自治振興協議会

私たちの願い 天まで届け!

各家庭や保育園、こども園、町内施設4か所に飾られた笹飾り短冊
家族の願い、子どもたちの願い、全国各地・世界からSNSを通じて届いた願い
それぞれに叶いますように!

I wish that the pandemic will go away
so that I can see my friends



「土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)指定」

「防災無線整備」

住民説明会

日時 10/22(木)日
場所 19:00～
大東公園体育館



【レッドゾーン指定】

島根県では土砂災害から身を守るために、土砂災害防止法に基づくレッドゾーンの指定を令和2年度中に県下全域において完了させる予定です。大東町内全域の基礎調査が平成27年度に完了し調査報告(町内771区域)がなされていますが、今回その指定に向けた説明会が行われるものです。区域指定されると

- 1) 特定の開発行為に対する許可制
- 2) 建築物の構造の規制
- 3) 建築物の移転勧告
- 4) 宅地建物取引における措置

などの法的規制とともに、新築、増改築する場合の補助が受けられます。

【防災無線設備】

雲南市では災害発生時等での情報伝達を円滑・確実に行うため、令和3年10月から運用開始ができるよう防災無線整備を進めています。既存の屋内音声告知放送以外に、新たに防災ラジオを全戸に無償貸与するとともに、雲南市内131箇所(大東地区内：大東地域交流センター 大東小学校 金成上公民館 清田公民館)に屋外スピーカーを設置し、防災情報を流します。



詳しくは市報うんなん9月号別冊をご覧ください。



特殊詐欺に注意してください!!



雲南警察署 大東駐在所 外谷 睦

今年の春、大東駐在所に赴任しました外谷といいます。

大東町に移り住んで、早いもので半年になります。日頃から地域の皆様にご挨拶となり、大東地区で働けるのを家族共々喜んでおります。

私の趣味のひとつは機械をいじることで、工具を揃えてDIYを楽しんでいます。

さて昨今の治安情勢ですが、雲南市でも特殊詐欺の被害が発生するなど、引き続き警戒の必要があります。最近では、パソコンでインターネットを閲覧中の人を、ウイルス除去の名目で、お金を騙し取られる被害が多発しています。

詐欺に遭うのは高齢者というイメージをお持ちの方も多いと思いますが、パソコンやスマートフォンを持っている人なら、誰が詐欺の被害に遭ってもおかしくありません。電話やメール

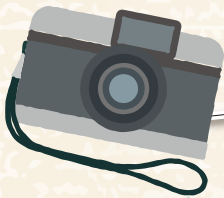
等で「電子マネーやクレジットカードで料金を払ってください」といった指示をされた場合は、1人で判断せずに家族や警察に相談するようにしてください。

また来年2月には、駐在所が大木原地区に移転する予定です。これまで駐在所の活動を温かく見守っていただいた西町地区の皆様には、大変感謝しています。

勤務員一同、引き続き安全で安心なまちづくりに向け頑張りますので、皆様のご支援、ご協力をお願い致します。



大東駐在所完成イメージ図



パチリ 掲示板

Photo bulletin board

短い夏休みが終わり、大木原登校班31人が、毎日登校時の交通安全活動が続けられる小山さんに見守られて元気に登校しています。



今年の夏は大東でも大変な暑さが続き、35℃以上の猛暑日が11日ありました。特に、8月27日に野外温度計で38℃の最高気温を観測するなど体温を上回る危険な暑さとなりました。



大東高校 第73回織部祭「彩」～織部の地に咲かせよう希望の華～



毎月1回開催している生涯学習絵画教室では受講生11人が西町のしまね信用金庫大東支店を借りて作品発表会を行いました。



あいあい募金

ご寄付に感謝致します

- ・大東町（新庄南）中井 昌人 様（香典返し）
- ・大東町（田中下）内藤 隆幸 様（香典返し）
- ・大東町 大東地区福祉委員会 様（マスク売上金）

大東地区振興あいあい募金運営委員会（TEL：43-2130）

皆様からお寄せいただいたご寄付は地域の絆を深め、支えあう活動に対する補助金等に活用させていただきます。

にがおえて こんにちは！



（絵：大東町東町北 細田 滋）

早く子どもたちが伸び伸びとプレーできるように

JVC女子チームコーチ 上代 晴美

私は中学からバレーを始め、現在はママさんバレーをぼちぼち・・・と楽しんでます。その一方で大東ジュニアバレーボール女子チームのコーチとして、町内の小学生たちと週2回練習をしています。以前の練習では、コーチとして自分が「動いて」「見せて」「教えて」いたのが、最近は年齢とともに動けなくなり、元気な小学生に口だけで伝えるのが難しくなったなあ～と思う日々でした。そんな折、練習に『自然体バレー』の基礎練習を取り入れることになりました。子どもたちは映像を見てトレーニングやダンスの練習をするのです。初めは戸惑い立ち止まる子もいました。しかし、すぐに動きだし、大人には真似できない複雑な動きを次々と覚えていきます。『動ける体に技術は乗る！』という言葉のとおり、同時にバレー技術も身につけていきます。私はこの運動神経の発達を促す動きづくり、体づくりの練習を早く体感してもらいたいと思うようになり、園児から大人まで自由に見学や参加できるサークルを始めました。しかし、コロナ禍で広くお誘いすることができず、現在はチーム関係者のみで活動しています。

私はこんな不安な事態が早く収束し、安心して過ごせる日が戻ってくることを、そして小さなバレーボーラー達が伸び伸びとプレーできるようになることを願ってやみません。

まなびの泉

大東小6年生 19日間の夏休み

★8月11日に桃源郷で半日キャンプをしました。矢を作って遊びました。作るのには時間がかかったけど、うまくできてよかったです。そして、川で遊びました。魚を2ひきぐらいつかまえました。次にコテージで遊びました。トランプや絵をかいたり、にせもののヘビでドッキリをしました。コテージで楽しく遊べてよかったです。またみんなでしたいなと思いました。
(大坂 光咲)

★ぼくが夏休みに心に残ったことは、映画に行ったことです。夏休みに6年生の友だちと、映画の「今日からおれは」を見に行きました。映画を見るときに少し悲しかったことがありました。それはコロナで1席ずつあけてすわらなければならなくて、映画を見るときは何も食べてはいけなかったことです。次に行くときには、友だちととなり同士ですわってポップコーンなどを食べながら見たいです。
(大島 敦生)

★ぼくは妹とお父さんと桃源郷に行きました。最初、川に行きました。行ってよい範囲の上から下まで歩きました。ズボンがびしょびしょになってしまいました。その後つりをしました。最初のほうでつれて良かったです。魚を持って帰るとお母さんが食べて、「おいしい」といってくれてうれしかったです。今度行くときはもっとつりたいです。
(曾田 悠叶)

★ぼくは家族と大田市の海に行きました。嵐があって波が高かったです。海に入ると流されそうでした。おもしろかったです。また海に行きたいです。
(辻 大雅)

★わたしは夏休みに、隠岐にある西ノ島町に行きました。「通天橋」や「摩天崖」などの観光地を見ました。たくさん馬や牛が放牧されていて、道路などもあるいていました。かわいかったです。それに、年に一度の大干潮だったので、たくさん岩の上を歩きました。ローソク岩と夕日も

見えました。アワビやウニやクロダイなどたくさんの魚がいました。おもしろかったのでまた行きたいです。
(和多田 くらこ)

★夏休みにスポ少で益田まで行きました。益田に行く時は3時間ぐらいかかりました。試合は2対3で勝てたのでよかったです。ランニングホームランも打てたので、益田まで行ってよかったなと思いました。
(松崎 琉惺)

★夏休みの最終日に、私は姉とその友達と「龍頭ヶ滝」に行きました。午前中友達と遊んだあと、急に言われたからびっくりしたけど、姉の友達がつれていってくれました。たいへんうれしかったです。
(戸屋 成海)

★夏休みにキャンプに行きました。家族全員で行きました。さいしょに海で魚をたくさんつりました。魚のえさをまいたら、小魚たちがたくさんきておもしろかったです。家族みんなで魚つりができて楽しかったです。次にキャンプをするところに行きました。テントをはってごはんを食べてたくさん遊べて楽しかったです。またキャンプに家族で行きたいです。
(門脇 もも)

★わたしの思い出は、3人の友達と川で遊んだり勉強したりしたことです。1人では宿題はあまり進まなかったけど、いっしょにやったらたくさん進んだのでよかったです。川では水をかけあって頭までぬれて楽しかったです。
(中村 紗和)

★わたしの夏休みの思い出は、バスケットボールチームのみんなで花火をしたことです。今年はコロナウイルスのえいしょうで大会や七夕などがなくなってしまったので、みんなで楽しく花火をすることができ、とてもうれしかったです。来年にはコロナウイルスもおさまって、またいつものように楽しい行事がいっぱいの夏休みになってほしいです。
(福岡 美優)

「インターハイ出場」を掲げて

大東高校女子ソフトボール部 前主将 女鹿田 朋香

昨年6月中頃、私がソフトボール部の主将となり新チームがスタートしました。

チームの目標に「インターハイ出場」、サブ目標に「全員が自立でき、いろんな人に応援され、愛される家族みたいなチーム」を掲げ活動することになりました。

最初は主将としてどう行動してよいか分かりませんでしたが、失敗を繰り返しながらも徐々に自分の役割が分かり、少しずつチームをまとめることができるようになりました。

新チームで初めて迎えた全国大会につながる大会で優勝し、地域のみなさんに応援をしていただきながらチーム一丸となり練習に励んでいましたが、コロナウイルスで全国大会は中止になってしまいました。私たちは全国大会に出場したことがなく、「やっと思える」といううれしさが悔しさに一変すると同時に、目の前の目標や夢がなくなり、自然と涙が溢れました。

その後は、インターハイ、総体も中止となり一気に気

持ちが切れてしまいました。代替大会があると決まってもなかなか気持ちが戻らず、3年生の皆でミーティングをしました。その結果、島根県一を目指して再度頑張ろうと意思統一することができました。コロナウイルスによる部活動休止後の練習では体が思うように動かないため、3年生は全体練習後に1時間自主練習をしました。その時は先生方にお世話になり大変感謝しています。



代替大会本番は、決勝まで勝ち上がり、決勝戦では7回まで1対3で負けていたのですが、ずっと笑顔で戦い、最終回に逆転し優勝しました。この試合は3年間の中で一番緊張しましたが楽しい試合でした。1年生から3年生全員で最後の最後まで戦うことができて本当に良かったです。

後輩たちには、私たちが叶えられなかった「インターハイ出場」を是非叶えてほしいです。



新型コロナウイルスから 思い出した大東の夏祭り



広島市安佐北区 狩野 彰彦(本町出身)

夜遅くまで賑わった「えびす祭り」、「七夕祭り」の二つの大きな祭り以外に、旧田町（現南本町付近）の「咳婆さん」、神田町の「鳴石さん」の夏祭りが思い出されます。

咳婆さんの祭りは、咳の病を防ぐ願いがありました。その由来となった清田川は、昔は宗専寺山裾から阿用川に向かって流れ、一部は現神田橋下辺りで赤川に合流していたようです。それを江戸時代前期、治水と耕地拡大のため、現在の東町への流れに改修されたと記録に残っています。（※1）

農耕用水を配分管理する堰守りという大切な仕事がありました。旧大東町役場近くに、廃川となった旧清田川の堰守りをするお婆さんの住まいがあったと伝聞されています。子どもの頃、野田原の麓にあったそのお婆さんの墓に地域の祭りとしてお詣りした記憶が脳裏に残っています。その後昭和40年過ぎに南本町地内の一畑薬師如来堂隣に移され、大切に祀られていると聞きます。堰守り婆さんがどうして咳の病を防ぐ信仰の対象になったのかについては、伝聞によると、大正時代に起きた世上に言うスペイン風邪に由来しているようです。（※2）

スペイン風邪は日本国内でも猛威を振るい、終息するまでに2年半を要したと報告されています。新型コロナウイルスに対しては、現在、世界的に大規模な取組が行われており、対応に格段の違いがあり比較できませんが、大正時代において、スペイン風邪克服のため何かにはすがりたいという切羽詰まった気持ちが世の中に充満していたと思われます。

大東の地で300年も伝えられた堰守り婆さんの墓ですが、突発的に流行したスペイン風邪の時期に「せきもりばあさん」が「せきばあさん」となり、風邪封じの守り神とされ信心の対象となり、その後祭りとして根付いたと聞きました。言葉の言い伝えが、後世になって文字が当てられた際に、発音は同じでも異なる文字が当てられて伝承された事例と考えられます。

この伝承と軌を一にする夏祭りに「鳴石さん」

と呼ばれる祭りがあります。今も神田橋たもとに鳴石さんと呼ばれる大きな石碑があります。伝聞によると、江戸時代以前、付近の河川敷に仕置き場（刑場）があり、大きな石が碑（命石）として設けてあったそうです。時代を経て河川工事等が進み、命石は場所を転々としながらも墓石として護られ、いつの時代からか「命石」が「鳴石」の文字で呼ばれるようになり、神田橋架橋の折に現在地に移転したとされています。

言葉による事物の言い伝えは、時代が移り周囲の環境や社会情勢が変化しますと、当時の呼称が、時代の要請等を反映した文字や呼称に変化する例は多く見られます。

言葉による伝承が文字に置き換わった時、言い伝えが大きく変わり、大東では地域の夏祭りに姿を変え、浴衣姿の楽しい夏祭りの行事となりました。大東の民俗的な文化遺産の一つと言えると思います。



南本町一畑薬師如来堂の隣に「咳婆さん」が安置されています

※1 清田川は、江戸時代、承応2年(1653年)の検地帳では阿用川方面に向かって流れていますが、約30年後の検地図では現在の流れになっています。松平直政が松江藩主の時代、藩の施策として河川が農耕地に転換されており、このことは石高が18万石余りから29万石ほどに増えている資料からも裏付けられます。

※2 スペイン風邪は1918年3月、米国カンザス州に端を発し、4月中には米国全土に拡大。その後、全世界に広がったとされています。日本では2380万余りの患者が発生し、死者は38万人余りと報告されています。第一波から終息までに2年半を要したとされ、本県でも多くの罹患者があったと記録に残っています。

令和2年 8月末現在の 人口・世帯数 【（）内は対前々月比】	項目	総人口	男性	女性	世帯数	高齢化率
	雲南市	37,308人(▲86人)	17,974人(▲45人)	19,334人(▲41人)	13,737世帯(▲9世帯)	39.25%(+0.09%)
	大東町	11,875人(▲40人)	5,776人(▲19人)	6,099人(▲21人)	4,159世帯(▲7世帯)	39.07%(+0.06%)
	大東地区	3,486人(▲7人)	1,677人(▲1人)	1,809人(▲6人)	1,260世帯(±0世帯)	

資料：雲南市HPより

郷土の暮らしと文化

西方寺の「やけど如来」

大東の歴史をたずねる会 宮澤 明久

大東中学校の通学路脇に西方寺という臨済宗のお寺がある。鎌倉時代初期の建立と伝わり、ご本尊の阿弥陀如来像は脇仏の勢至菩薩・観音菩薩とともに雲南市の文化財に指定されている。

むかし、お寺の近くの田中家にお松さんという心優しい女中がいて、ひまを見ては西方寺にお参りして篤く信心をしていた。しかし田中家のおかみはこれが気に入らず日頃叱っていた。それでもお松さんはお参りを続けていた。とある日、熱いご飯をお供えしようと茶碗に盛り付けているところを見つけたおかみさんは、見せしめに囲炉裏にあった焼けた火箸をお松さんのほほに擦り付けた。しかし、お松の顔には火傷の跡は残らなかった。

その夜、田中家の主人の夢枕で仏様が「この家のお松は心清く優しい娘でこれまでも長いこと阿弥陀様を信心して供養を怠らなかったのに、今日はお松はひどい目にあった。私はお松の火傷の難を代わってやった。」と主人夫婦をいさめられた。主人がよく見ると仏様は、頬が焼けただれた西方寺のご本尊であった。あわてて本堂へお参りしてみると頬が焼けただれたご本尊様がおられた。

おかみから昼間の顛末を聞いた主人は、お松にことわりをするがお松には何も傷はなく昼間のことは記憶にもないと言う。「ご本尊様が身代わりになられた」といよいよ信心供養するようになったとのことである。

これが「やけど如来」の由来であり、ご本尊の頬に見られる黒い跡は火傷の跡と言われ、境内の祠にはお松を祀った石像が安置され下方に湧く水を火傷に付けると早く治ると伝えられている。



にしこり **錦織** **真澄さん**
(古城自治会)



本業もさることながら趣味も多様、長身でかっこいい錦織真澄さんに話を伺いました。柔らかな口調で穏やかに話をいただきました。

Q 雲南夢ネット「すご縁」でも紹介されていたように、レーザーカッターで色々な小物類を作成されていますが、これについて聞かせてください。

最初は事業（本業は建築業）で使っていました。それまで手作業でモノづくりをしていました。いつだったか娘から金属製のアクセサリーの修理を頼まれましたが治すことができませんでした。その時、娘の「木で何か作って見たら？」の一言でひらめきました。レーザーカッターを使い、木を材料に娘の希望を叶える為にアクセサリーを作ってみたのがきっかけですね。今は、キーホルダー、イヤリング、ポケットティッシュケース、名刺入れ、表札も作るようになりました。

作品のデザインを考え図案化し、パソコンに入力するまでが時間を要します。夜中になることもたびたびですね。でも、出来上がりを想像しながら楽しんでます。これからは、ネットでも紹介し作品の幅をもっともっと広げたいですね。

沢山の作品を見せていただきました。可愛げなモンばかりでした。

Q 大東教育振興会副会長としても活躍されていますが。

活躍とは言えませんが、子どもが高校生の時にPTA会長をやらせていただきました。また、大東教育振興会では会長の補佐役で小学生・園児たちの教育支援の応援をしています。子どもは、未来を託す大切な宝ですから、教育の方でも信望が厚いのですね。

Q 大東町の最大の夏祭り「大東七夕まつり」の応援プロジェクト「大東七夕祭応援計画」の一員としてご活躍ですが、取組等についてひとこと。

近年少子化が進み子供が少なくなる中「何とか七夕祭を盛り上げ継続していこう。」と地元自治会の少人数で立ち上げたものです。応援の仕方を試行錯誤しながら、また、多くの人の協力支援を頂き、応援の輪も広がってきました。

Facebookを活用し、全国に大東七夕祭りを紹介しています。地元でも認識を新たにされた方も増えました。これからも応援していきます。700年以上続く伝統行事が皆さんに守られ、今後も続けられますように……。

色々話をうかがいましたが終始穏やかに言葉を選びながら一つ一つ丁寧に答えて頂きました。自宅は大東高校のグラウンドのすぐ上、今日も明日も部活動で頑張っている高校生に熱いエールを送ります。